

令和 4 年 7 月 29 日

原爆の日に関連した広島大学主催行事について

77 回目の原爆の日を迎えるにあたり、広島大学の関連行事をご案内します。

8 月 6 日に、広島大学原爆死没者追悼式を東千田キャンパスで開催します。広島大学に包括された旧制諸学校の教職員、学生、生徒および児童で、在職中または在学中に原子爆弾に被爆され、その後亡くなられた方々の御霊を慰めるために執り行うものです。

今回は新たに 19 人を書き加え 2,060 人となった原爆死没者名簿を奉納します。

また、死没者追悼式の後に、平和企画を実施します。今年度の平和企画は、映画「8 時 15 分ヒロシマ 父から娘へ」の原作・映画製作総指揮者である美甘 章子（みかも あきこ）氏にお越しいただき、映画の上映会の後、ご本人にご挨拶いただきます。

続いて、これまでの平和企画でバイオリン、ピオラ、チェロを制作しましたが、今年度、被爆の記憶の継承と音楽による平和発信を目的として、被爆樹木を素材としたバイオリンを制作したので、お披露目を行います。

最後に、本学教員、学生による平和祈念ミニコンサートを開催し、平和を想う場とします。

【お問い合わせ先】

財務・総務室総務・広報部
広報グループ

TEL：082-424-3701 FAX: 082-424-6040

令和 4 年 7 月 29 日

8 月 6 日に広島大学原爆死没者追悼式および
広島大学平和企画を実施します

本学では、広島大学に包括された旧制諸学校の教職員、学生、生徒および児童で、在職中または在学中、広島に投下された原子爆弾により被爆され、その後亡くなられた方々の霊を慰めるため、下記のとおり原爆死没者追悼式を執り行います。また、同日広島大学平和企画を実施します。

なお、昨年同様、新型コロナウイルス感染症対策および熱中症対策のため、参加人数を制限し、開催いたします。

記

(1) 広島大学原爆死没者追悼式

日 時： 令和 4 年 8 月 6 日(土) 午前 10 時開式

場 所： 広島大学東千田キャンパス内
「広島大学原爆死没者追悼之碑」前
(広島市中区東千田町一丁目 1 番 89 号)

式次第： 開式の辞
原爆死没者名簿奉納
黙とう
追悼の辞
献花及び献水
閉式の辞

※今回新たに確認された死没者 19 人を書き加えた原爆死没者
名簿(記載数 2,060 人)を奉納

<参考>

閉式後、引き続き、「原爆死没者遺骨埋葬の地碑」(東千田キャンパス内)に、広島文理科大学および広島高等師範学校の関係者による献花および献水を執り行います。

(2) 広島大学平和企画

広島大学平和企画 「映画と音楽による、平和を希求する思いの継承」

日 時：令和4年8月6日（土） 10:50～13:00

場 所：広島大学東千田未来創生センター4階 401, 402
（広島市中区東千田町一丁目 1 番89号）

【概 要】

越智光夫学長挨拶

第Ⅰ部 平和センター映画上映会 10:50～12:15 ※別紙1参照

「8時15分ヒロシマ 父から娘へ」

舞台挨拶：原作者・映画製作総指揮 美甘章子（みかも あきこ）氏

1. 司会進行・原作者紹介：川野 平和センター長
2. 映画上映会
3. 感謝状・記念品贈呈

第Ⅱ部 被爆樹木を素材とした楽器の披露 12:25～12:35

被爆の記憶の継承と音楽による平和発信を目的として、被爆樹木を素材とした楽器（バイオリン）を制作し、披露する。

1. 企画説明（国際室 嘉陽研究員） ※別紙2参照
2. 被爆樹木バイオリンの披露

第Ⅲ部 本学教員、学生による平和祈念ミニコンサート 12:40～13:00

2019年から毎年製作してきた被爆樹木を素材に使用した楽器（バイオリン、ピアノ、チェロ）を用いた演奏会を行う

1. 演目解説・演奏者紹介
2. 教員及び学生による演奏

【お問い合わせ先】

（原爆死没者追悼式について）

財務・総務室総務・広報部総務グループ 谷、北村
TEL:082-424-6032 FAX:082-424-6020

（平和企画について）

第Ⅰ部……平和センター 事務室

下手（しもて） TEL:082-542-6975

FAX:082-245-0585

第Ⅱ・Ⅲ部……国際室国際部グローバル化推進グループ

平野（ひらの） TEL:082-424-6046

高（たか）・嘉陽（かよう） TEL:082-424-6182・4566

FAX:082-424-6179



あの日の絶望と悲しみから
こぼれ落ちた、ひとすじの光
いまこそ君に伝えよう
世界の未来を救う、このころを



父から娘へ ヒロシマ 8時15分

監督：J.R.ヘップネル / フィンガー
プロデューサー：ニコレ・フュイン
田中壯太郎 / ショナン・タニガキ / エディ・大野・トオル / 美甘進示 / 美甘章子 / ユリリ・チヨウ
松坂龍馬 / ニコレ・フュイン / アーサー・アクシス
原作本：8時15分 ヒロシマで生きぬいて(著者：) 美甘章子著 (講談社エディトリアル)
2020年 / アメリカ / 61分 / シネマスコープ / 配給：新日本映画社

8:15

Eight Fifteen

Film by
J.R. Heffelfinger



1945年8月6日。ヒロシマを生き抜いた少年がやがて父となり、現代を生きる娘に伝えた想い。
それは、父から娘へ託された、平和を願う永遠のメッセージ。

© 2020 DOCUMENTARY LLC. A CO-PRODUCTION WITH RAINBOW GORGES. PRODUCED BY ANCHORAGE. A FILM STORY BY JOURNAL. NEW PRODUCTION. STARRING: TONY GARCIA, ANTHONY TRAVIS, LEE YOUNG, AND MARIANO PARRAMA. VISUAL EFFECTS BY ALEX CHENOSKY. MUSIC BY THE ACCORDIAN SOCIETY. CINEMATOGRAPHY BY J. HEFFELFINGER. EXECUTIVE PRODUCER: MARIANO. PRODUCED BY J. HEFFELFINGER.

被爆樹木等を素材に用いて製作した楽器（バイオリン）について

令和4年7月

【素材】

被爆樹木および被爆者埋葬地の樹木ならびに被爆建物破片を、素材の一部に使用

- ・被爆樹木 1、は爆心地から約 370m 地点 (1) に生育するシダレヤナギ（広島市被爆樹木リスト認識番号 N03a1-01）(2) で 2017 年 12 月の養生作業の際に一部伐採したもの。所有者立会いのもと許可を得て採取した。
- ・被爆者埋葬地樹木は爆心地から約 8,200m 地点 (3) に位置する広島市南区似島北部の埋葬地において、2018 年 4 月に実施された御遺骨発掘作業の際に立木を伐採したもので地権者の許可を得て採取した。
- ・被爆建物破片（レンガ材）は爆心地から約 2,850m 地点 (4) に位置する広島陸軍兵器補給廠（広島陸軍兵器支廠）（戦後に本学医学部の 3 号館として使用されていた建物）で、そのレンガ破片が 2020 年 1 月に本学霞キャンパス構内の下水道工事の際に発見されたもの、管理者立ち合いのもと許可を得て採取した。
- ・被爆樹木 2※は爆心地から約 3,700m 地点 (5) にある江波山に生育するヒロシマエバヤマザクラで、2021 年 8 月の台風被害で倒れた幹から一部採取したもの。管理者立会いのもと許可を得て採取した。（※広島市に登録されている被爆樹木については「現在でも爆心地から概ね半径 2 キロ以内に 160 本ほど残っています」と解説されており、爆心地から約 3,700m 地点で被爆したヒロシマエバヤマザクラは広島市の被爆樹木リストに登録されていない (6)。

(1) , (2) (爆心地からの距離、および広島市被爆樹木リスト認識番号は広島市ホームページより引用 <https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/48/9262.html>) 2022 年 6 月 10 日閲覧

(3) (爆心地からの距離は広島県国際平和拠点ひろしまホームページを参考にして嘉陽が算出した <https://hiroshimaforpeace.com/ninoshima/#:~:text=%E7%88%86%E5%BF%83%E5%9C%B0%E3%81%8B%E3%82%89%E3%81%AE%E7%9B%B4%E7%B7%9A,%E3%81%B0%E3%82%8C%E3%81%A6%E3%81%8D%E3%81%AF%E3%81%98%E3%82%81%E3%81%BE%E3%81%97%E3%81%9F%E3%80%82>) 2022 年 7 月 7 日閲覧

(4) (爆心地からの距離は広島市ホームページを参考にして嘉陽が算出した <https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/48/9227.html>) 2022 年 7 月 5 日閲覧

(5) (爆心地からの距離は江波山気象館ホームページより引用 https://www.ebayama.jp/?page_id=3633) 2022 年 7 月 4 日閲覧

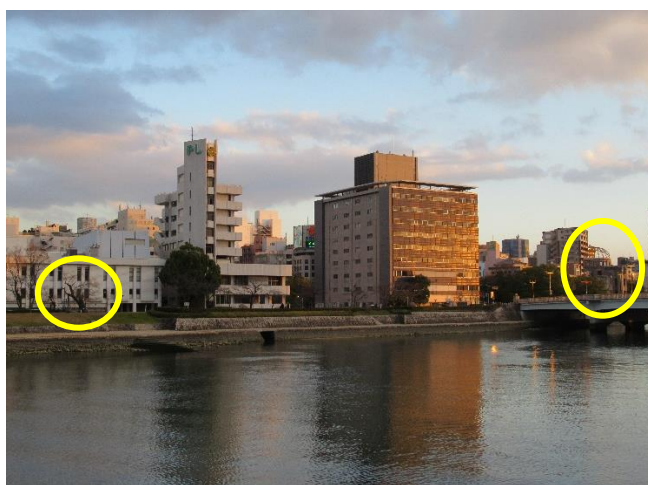
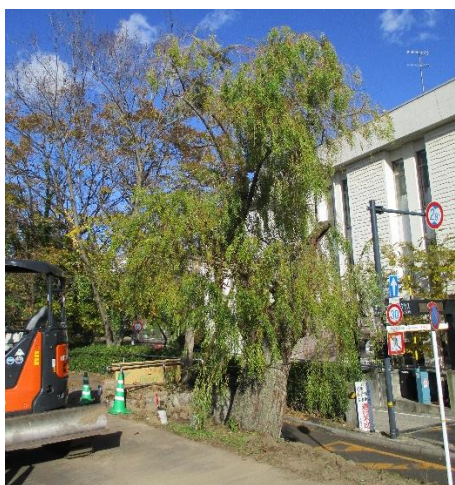
(6) 解説は広島市ホームページより引用 <https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/48/9262.html>) 2022 年 7 月 7 日閲覧

【製作】

- ・三原バイオリン工房の三原博志氏（イタリア・クレモナ国際バイオリン製作学校に学ぶ。糸崎在住）に製作を依頼した（同工房へは上記被爆樹木等を素材として、バイオリン（2019年）、ビオラ（2020年）、チェロ（2021年）、の製作を依頼している、いずれの楽器もこれまでに演奏会や練習に使用されており、楽器製作素材としての強度、適性は確認済み）
- ・バイオリンの一部（背板、側板、テールピース、あご当て、エンドピン、象嵌細工、ニス）の素材として被爆樹木等を使用し、楽器を製作した（本来であれば素材を乾燥させる年数が数十年程度必要であるため、近年取得した被爆樹木等のみではバイオリン一挺の製作が難しいことから、それらを素材の一部に用いて製作した）

【使用する部位】

- ・被爆樹木 シダレヤナギ
⇒側板の上部2部分、背板の象嵌細工（板にはめ込む装飾）
- ・埋葬地樹木 エゴノキ
⇒側板下部の2部分、あご当て
- ・被爆樹木 ヒロシマエバヤマザクラ
⇒背板（1枚板）、側板中部の2部分、テールピース、エンドピン、
- ・被爆建物 広島陸軍兵器補給廠（レンガ材）
⇒ニス（同レンガ材の粉末を混入したニスを楽器表面に塗装した）
- ・表板はイタリア、フィエンメ渓谷のスプルース材を使用、その他の部材は輸入材を使用。
- ・被爆者感情に配慮し、ニスはこげ茶色系の色で仕上げる予定（赤・オレンジ色系の明るい色は炎や血液、ヤケドを連想させてしまう恐れがあるため）



2017年11月、被爆シダレヤナギ（中区青少年センター西側）と約240m離れた原爆ドーム（被爆シダレヤナギから原爆ドームまでの距離は嘉陽礼文がウォーキングメジャーで計測）



2017年12月の養生作業における採取の様子、青○位置にあった腐食部分を切断したものの



2018年4月の似島小筏地区における原爆死没者御遺骨発掘作業の際に伐採したエゴノキと採取の様子、この樹木から3~4m離れた地点から被爆者とみられる御遺骨が発見された。



2020年1月、広島大学霞キャンパスにおける広島陸軍兵器補給廠建物のレンガ採取の様子
2021年5月、三原バイオリン工房におけるレンガの2ミリ厚への切断、粉末製作の様子



2022年4月3日 満開のヒロシマエバヤマザクラ
 (2021年8月にオレンジ色部分にあった幹が倒れた)



2021年12月ヒロシマエバヤマザクラ製材の様子 鉋(かんな)がけの様子



シダレヤナギ ヒロシマエバヤマザクラ

シダレヤナギ ヒロシマエバヤマザクラ エゴノキ

2022年2月楽器本体の製作途中の様子 側板の上部、中部、下部
 背板と象嵌細工(白い部分)(全体にニスは塗っていない状態)

(文責：嘉陽 礼文)

【所有楽器】

三原博志バイオリン工房製作

① 『2019年製バイオリン』

このバイオリンは、ペグ、テールピース、エンドピン、あご当て、背板の象嵌細工に被爆樹木シダレヤナギを使用し、側板に被爆者埋葬地のエゴノキを使用しております。



三原博志バイオリン工房製作

② 『2020年製ビオラ』

このビオラは、側板（上・下部分）、背板の象嵌細工に被爆樹木シダレヤナギを使用し、あご当て、側板（c部分）に被爆者埋葬地のエゴノキを使用しております。



三原博志バイオリン工房製作

③ 『2021年製チェロ』

このチェロは、側板に被爆者埋葬地のエゴノキを使用し、背板の象嵌細工に被爆樹木シダレヤナギを使用しております

表板のコーナー部分4カ所とスクロール背面部分1カ所に、広島陸軍兵器補給廠のレンガの小破片を埋め込んで固定し、ニスには同レンガの粉末を混ぜ込み、塗装しております。



三原博志バイオリン工房製作

④ 『2022年製バイオリン』 (現在、製作中)

このバイオリンは、側板に被爆樹木シダレヤナギ、被爆樹木ヒロシマエバヤマザクラ、被爆者埋葬地のエゴノキを使用し、背板とテールピース、エンドピンに被爆樹木ヒロシマエバヤマザクラを使用し、背板の象嵌細工に被爆樹木シダレヤナギを使用しております。ニスには広島陸軍兵器補給廠レンガの粉末を混ぜ込み、塗装しております。

(所有楽器解説文責・国際室 嘉陽礼文、楽器撮影・三原博志バイオリン工房)

2022年8月
6日に
完成予定

被爆した南方特別留学生と被爆バイオリンの演奏について

令和4年7月

【本学前身校の留学生の被爆と、被爆バイオリンが奏でた音楽の記憶の継承】

昭和20年（1945年）8月7日の20：00頃、広島文理科大学（広島市中区東千田町一丁目1番。爆心地から1,420メートル（1））の屋上において、当時、同大学構内で避難生活を余儀なくされていた、被爆した南方特別留学生と被爆した日本人数名による音楽の集いが開かれた、その目的は被爆直後の廃墟の中で共に励まし合い、生きる望みをつなぐためであった。その際に南方特別留学生の一人である、アディル・サガラ氏が被爆バイオリン演奏をし、また歌の伴奏を行った（2）。本年度の8月6日平和企画では、同じく東千田の地でのバイオリン演奏をはじめ、同平和企画において令和元年度より被爆樹木を素材として製作されてきた楽器を用いた弦楽四重奏によって、約77年前の広島文理科大学における演奏を再現する。また演奏に先立つ楽器製作説明においては、栗原明子氏の証言を元に本学学生が制作した絵を用いつつ、被爆直後の広島文理科大学における避難生活の様子を説明する。

写真1（写真提供 吉岡ひろ子氏）



バイオリンを演奏するアディル・サガラ氏（被爆前）

写真2（写真提供 栗原明子氏）

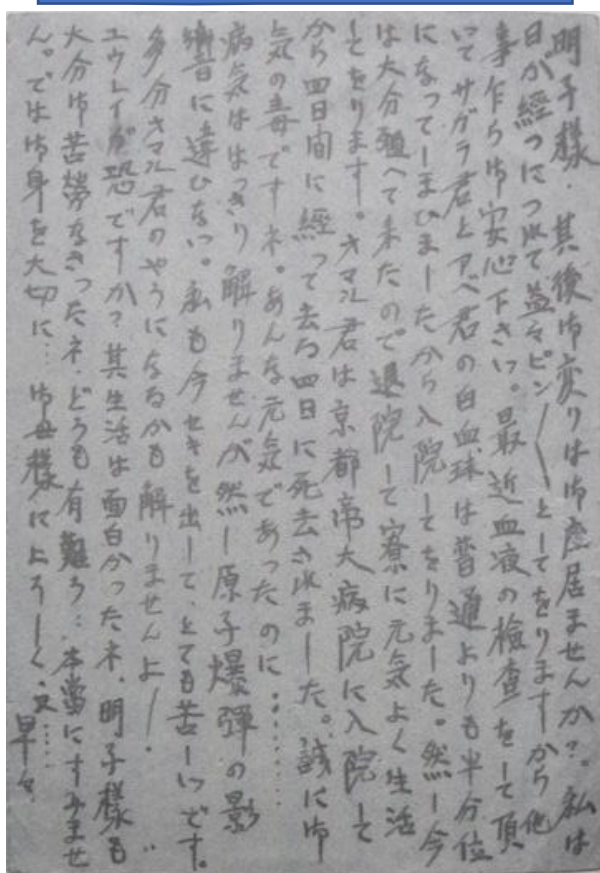
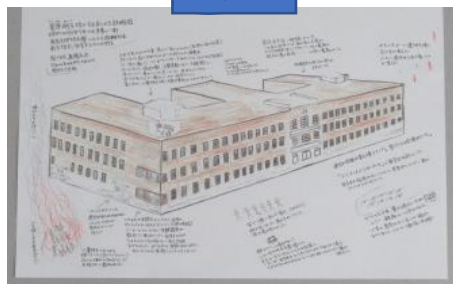


写真3



栗原明子氏の証言を元に本学学生が制作した絵（2022年8月6日に説明を予定）

南方特別留学生のアブドール・ラザック氏から栗原明子氏への葉書（1945年9月）

【南方特別留学生について、被爆直後の避難生活について】

南方特別留学生とは太平洋戦争中の昭和 18 年（1943 年）と 19 年に日本政府が東南アジア諸地域から招聘した 205 名の留学生をいう（3）

- ・ 広島原爆投下時には 9 人の南方特別留学生が広島文理科大学に在学していた（4）
- ・ うち 6 人※の南方特別留学生は、被爆直後に広島文理科大学で避難生活を一週間過ごした（5）※（7 人という記録もある）（6）
- ・ 避難生活者には日本人も数人いた（現在 1 名が存命。栗原明子氏、2022 年現在 96 歳）
- ・ 避難生活の中で、1 人の留学生アディル・サガラ氏が一度、広島文理科大学の屋上でバイオリン演奏をし、同席した人達は一緒に歌った（トランブーラン、ブンガワンソロ（以上インドネシア民謡）、荒城の月、さくら、賛美歌、など）（7）
- ・ 被爆した南方特別留学生 8 名のうち、被爆後に行方不明となったニック・ユソフ氏を南方特別留学生たちは探し回ったが見つめることができなかった（8）
- ・ 被爆した南方特別留学生 8 名のうち、サイド・オマール氏は汽車で東京へ向かう途中で体調が悪化し、途中下車した京都で京都帝国大学附属病院へ入院した（9）、同病院の病床で、治療の担当をしていた濱島義博医師へ「ドクター、夕焼け小焼けを歌ってくれますか」と言った（10）、その後 9 月 4 日に死亡した（11）（サイド・オマール氏は、京都帝国大学附属病院における原爆症患者第 1 号となった）（12）

【広島大学の平和企画において製作された被爆樹木楽器と本年の平和企画について】

- ・ 広島大学は平和企画において、以下の、被爆樹木等を素材とした楽器を製作してきた。2019 年バイオリン、2020 年ビオラ、2021 年チェロ、2022 年バイオリン
- ・ 2022 年 8 月 6 日の広島大学平和企画において、これまでに製作された被爆樹木楽器を使用した弦楽四重奏を計画し、被爆後に南方特別留学生と日本人が演奏したり歌ったりした曲を演奏することとなった。
- ・ 同平和企画では、被爆直後に広島文理科大学において避難生活を送った栗原明子氏を招聘する予定であったが御高齢のため、同避難生活関係者の御遺族を招聘することとなった。
- ・ 同平和企画の演奏会では、本年 4 月、5 月、に嘉陽礼文が栗原明子氏に聞き取り調査を実施して得た証言を元に本学学生が制作した絵を発表することとなった。
- ・ (1) 広島市ホームページ、被爆建物リスト：
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/48/9227.html>：2022 年 7 月 11 日閲覧
- ・ (2) 嘉陽礼文による栗原明子氏への聞き取り調査：2022 年 4 月 19 日
- ・ 写真 1、江上芳郎著『南方特別留学生招聘事業の研究』龍溪書房：1997 年 p117
- ・ 写真 2、栗原明子著『ヒロシマからの祈り』いのちのことば社：2012 年 p39
- ・ 写真 3、栗原明子氏の証言を元に嘉陽礼文、治田遥花、が制作した絵（2022 年 7 月 13 日

現在、下絵の状態)

- ・ (3) 江上芳郎著『南方特別留学生招聘事業の研究』龍溪書房：1997年 p5
- ・ (4) 江上芳郎著『南方特別留学生招聘事業の研究』龍溪書房：1997年 p118
- ・ (5) 江上芳郎著『南方特別留学生招聘事業の研究』龍溪書房：1997年 p130
- ・ (6) 栗原明子著『ヒロシマからの祈り』いのちのことば社：2012年 p36
- ・ (7) 嘉陽礼文による栗原明子氏への聞き取り調査：2022年5月26日
- ・ (8) 江上芳郎著『南方特別留学生招聘事業の研究』龍溪書房：1997年 p125
- ・ (9) 江上芳郎著『南方特別留学生招聘事業の研究』龍溪書房：1997年 p135
- ・ (10) 早川幸生編,圓光寺オマールさんの会,京都被爆二世・三世の会,被爆体験の継承 96
濱島義博氏 講話 <http://aogiri2-3.jp/hibakutaiken96.html> 2022年7月14日閲覧
- ・ (11) 江上芳郎著『南方特別留学生招聘事業の研究』龍溪書房：1997年 pp135-136
- ・ (12) 早川幸生編,圓光寺オマールさんの会,京都被爆二世・三世の会,被爆体験の継承 96
濱島義博氏 講話 <http://aogiri2-3.jp/hibakutaiken96.html> 2022年7月14日閲覧